

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター和地
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和7年6月27日（金） 13時30分 ～ 15時40分
2 開催場所	伊佐見協働センター ホール
3 参加者	委員：16人 事務局：5人 その他：5人（長寿支援課1人、高齢者福祉課2人、地域包括支援センター1人）
4 協議の内容	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 委員紹介3. 会長、副会長選任 会長を全体で1名選任。副会長を各地区より1名ずつ（計3名）選任。4. 協議事項<ol style="list-style-type: none">①現状の地域課題の確認 生活支援体制づくり協議体の説明と、過去の協議体から出た課題について地区ごとに現状どのように捉えているか確認を行った。②地域の居場所の紹介・居場所の必要性<ol style="list-style-type: none">(1) 居場所とは、なぜ必要とされるのか 市社協事務局より、居場所の説明を行った。(2) 介護保険からみる居場所の必要性 地域包括支援センター和地より、介護保険の現状と居場所の必要性について説明を行った。③グループワーク（地区ごと）<ul style="list-style-type: none">・下記参照（和地圏域生活支援体制づくり協議体グループワーク報告）5. 情報提供 三方原地区社協 家事支援活動（移動支援）について事務局より紹介。 事前に三方原地区CSWより情報提供いただいたチラシをもとに説明を行った。6. 連絡事項 次回日程 令和7年10月28日（火）13：30～ ふれあい交流センター湖東予定7. 閉会

5 今後の見通し・ 必要な対応

- ・第2回目の会議でのゲスト(グループワークで決定した団体のスタッフ)出席調整。
- ・居場所(サロンやカフェ)に参加したことが無く様子を知らない委員もいるため、見学し直接様子を見たり、困りごとをスタッフから聞いたりする機会を調整する。
- ・地域のサロンやカフェの内容やニーズ把握、分析を行う。

和地圏域生活支援体制づくり協議体 グループワーク報告

テーマ1「地域住民として地域の居場所についてみなさんはどう思いますか？」

- ・各地区で開催されているサロンについて存在は知っているが、参加したことはない。
- ・各サロンは公民館を会場として開催しているが、公民館以外での活動も今後は考えていく必要があると感じている。⇒立地上、公民館に行くことが身体的に難しい人もいる。
- ・居場所は必要だと感じる。
- ・話をする場(機会)が少ないため、近隣や訪問で会うと1時間近く話すことが多い。
- ・一時期、外出機会が少なかったときは身なりを整えないこともあった。
- ・地域からの要望を聞くときはある。ただし、行動しようとする際に協力員を募ると誰も手を挙げてくれない。どうしたらよいか悩みが尽きない。
- ・自分たちの10年後を考えると何かしたいという思いはある。
- ・居場所に関わらず、様々な活動の在り方が変わってきている。次の世代の考えも取り入れ変化していかないと成り手がなくなる。活動がなくなってしまう可能性もある。
- ・担当民生委員として和光町で居場所の立ち上げを検討している。開催にあたっては自治会との話し合いを今後行っていく予定。
- ・地区や町によってはシニアクラブやサロン活動が主に集会所で開催されている。高齢者が歩いて行ける範囲で開催されることが理想。
- ・シニアクラブやサロン活動に参加できる人はいいが、出てくることが出来ない人が課題。
- ・協議体会議では、各委員がそれぞれの所属、地域に持ち帰って会議の内容を周知し取り組むことが必要。
- ・居場所が開催されていない町もあるが立ち上げるきっかけとなる人がいない。

テーマ2「居場所の実際の活動についてどの団体からお話を伺いたいですか？」

<伊佐見>

○瞳ヶ丘ふれあいサロン

長く運営されていることや参加者が多いことからそこまでの過程や苦労について話を聞く。また、代表の方はサロン以外にもカフェを運営されているため瞳ヶ丘団地の状況についても話を聞く。

<和地>

○和地ひばり会

和地地区社協のなかで唯一サロン形式として開催されているため、活動の内容や困りごとについて話を聞く。

<庄内>

○堀江カフェ

参加者が多く好評だったため会場を2か所に増やし活動されている。その活動について内容や困りごとについて話を聞く。